

第1回 幼保小合同研修会だより

日時： 令和8年5月27日（水）午後3時～午後4時40分

場所： ニコニコこども館5階ふれあい学級（オンライン研修）

教育講演

幼児教育・保育と小学校教育の
質を高める架け橋の進め方

無藤 隆 氏



講師紹介 白梅学園大学大学院 名誉教授

お茶の水女子大学生活学部教授 白梅学園大学学長などを歴任 現在白梅学園大学大学院教授
「乳幼児期から小学校への連続的な教育」や「保育の資質向上」などの研究・教育活動を続けていま
す。

令和8年5月27日に白梅学園大学大学院 名誉教授 無藤隆先生の研修が行われました。
幼稚園・保育所と小学校のつながりの初歩は、小学校でのスタートカリキュラムにあり、幼児期に豊富
に経験している姿を「芽生え」として捉え、その芽生えを大切にしながら発展させ、学びにつなげて意識
できるようにしていく事が重要であると教えていただきました。

小学校の各教科とのつなぎ方については、具体的な事例を通じて分かりやすく説明していただきまし
た。そして、幼児期の学びを生かすには、先生が答えを提示するのではなく、子どもたち自身が協力して
答えを探ることが大切であると感じました。

また、体験の多様性を活かしていくことも重要です。例えば異なる幼稚園や保育所から集まる子どもた
ちが異なる経験をしている場合、それをプラスに転じ、子ども同士の交流を工夫することで、それぞれの
経験を共有しながら学びを深めることができます。児童同士で説明し合い、質疑を交わせる場を作り、す
べての子どもを巻き込むことで、充実した学びへとつながります。

架け橋プログラムに取り組むことを通じて、幼児教育と小学校教育の双方が協力し、子どもたちが園や
学校に通うことが好きになり、その意欲や気付き、工夫に満ちた活動が生まれることから、学力の基盤が
形成されることも学びました。「好き」という気持ちと知的な理解が結びつくことで、しっかりとした基
盤がつくられていくということを改めて実感しました。

スタートカリキュラムの進め方

幼と小の接続の始まりは小学校の始まりのスタートカリキュラムにある。そこでは幼児期の学
びを生かして小学校での学習活動につなぐ。

1) 出身の園で多くの経験をし、様々なことについて学んできている。ただし、その学びの経験
は園により、かなり異なることもある。

- ①10の姿が発揮しやすい環境・活動を用意し、幼児教育での芽生えの様子を知る。
- ②小学校に適用するための指導を前年生の経験や意見を聞きながら取り入れる意見もあり、
そうでないにしても、その理由を説明して進めていく。話し合い活動も可能にしていく。
- ③各教科等の学習の進め方は10の姿の活動としての遊びから、焦点が明確になった活動へと進
め、徐々にそこに移行していく。
- ④出身園や生まれ月その他の個人差が大きいので、その様子を見定め、活動を調整して、対応
を進める。

2) 特に幼児教育として行うこと（遊びを豊かに、学びを 確かに）

- ・ 幼児期の学びを「芽生え」として捉える。多くの芽生えは幼児期にこそ可能になり、それを送ると後からの補いは困難にな
る。幼児期の芽生えは無難にあり、そのすべてが小学校教育で取り上げられるとは限らない。それ以降の例えば理科・社会科
の芽生えは本質的に進んでいない。またそもそも小学校で取り上げられないこともあるものも限らない。それだけ幼児期
の学びは多いのである。
- ・ 幼児期のかつつかの活動について、いくつもの姿とそこで芽生えとなる学びが見られることを確認し、それを発展させるこ
とが小学校の各教科等の学びの在り方へと発展する。幼児期の芽生えは完成した学びではない。あくまで萌芽である。その発
展が中絶である。
- ・ 集団活動では子どもによって学びの質や深さへの活動が少しずつ始まる。こういことを思いついた。できた・分かったという
発表や疑問符を通して振り返り話し合いから、その後の活動の発展に向けていく。保育者が子どもたちが共にあって一連の
活動をコミュニケーションとして共に作り、それを特に5歳児の活動での学びの高度化、自覚化としていく。それは幼児期
の学びが実現して見えるようにすることである。それを小学校に伝えるようにしていく。
- ・ 子どもが発表や工夫の意欲を子ども同士の対話や保育者の媒介や質問により増強し、発展させ、学びとして意識できるように
していく。
- ・ 幼児期の一つの活動を、10の姿のいくつもの眼と捉えて捉える。そこからさらに伸びていく子どもはいろいろな姿を思い浮か
べ、それらの関連でその活動を吟味する。10の姿の一つ一つについて(例えば数量・図形の関心・感覚)、多種多様な多くの
活動に現れるはずなので、それぞれの特定の姿の現れを出し、それを整理して、幼児期の学びとして表現する。「話し出
し」集まる小学校に伝えることで、小学校に接続しやすくなる。

アンケートより

* 保育所での子どもたちの「芽生え」をたくさん引き出せる
ように、日々の保育を工夫しないといけないなと感じまし
た。子どもたちにとって学びや気づきが重要な時期なので、
私たち保育者が意識するのを忘れないようにしていきたい
と思います。

* 匂い博物館の事例はとても楽しそうだと思いました。こ
れまではなんとなく幼児教育が小学校に合わせて変わって
いけないといけないのかなと思っていましたがそうじゃな
くお互い寄り添っていかなきゃいけないと感じました。

* 一年生を担任していて、幼稚園や保育園とのつながりを
強く感じています。お互いの授業や保育を実際に見て、自分
の授業に活かすことが大切だと学びました。

* 今回の研修を受け、出身園や生まれ年など、個人差が大き
いことに留意し、その様子を見定めて活動内容の調節や対
応をしていくことが重要だと気づきました。また、年長の担
任だけが取り組むのではなく、全体での体制を作ることが
必要であると感じました。